

今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○12月8日～

今週は米国のFOMCに注目が集まっています。

米国の利下げはほぼ織り込み済みで、来年以降の利下げがどうなるかに関心は移っています。

株式市場では来年も利下げ期待が高まっていますが債券市場では利下げ確率が下がって、10年債の利回りが上がるという動きも見られます。

そして、今まで日本は利上げは来年以降との予想が多かったのが年内利上げの可能性が高まっています。

日本は利上げがかなり遅れている状況です。政治的なイベントやマーケットが混乱している状況での利上げは難しいですが、波乱がなければ利上げに踏み切る可能性は十分にあります。

米国が利下げ、日本が利上げとなると2つとも円高ドル安要因ということで、ドル／円の上値は抑えられそうです。

ただし、高市政権の政策から根強い円安予想も多く、中長期的なトレンドは予想が難しい状況です。株価も高値圏を推移しているためリスクオンの雰囲気となっていますがニュース次第で大きく動くかもしれません。

長期的にはトレンドがどうなっていくのか見えない状況なので、大きくポジションを傾けるのは危険です。

最近の相場は、円安相場というよりもドル安相場なので、ドルに対して各国通貨の強弱がどうなっているのかを見ておく必要があります。

オセアニア通貨(豪ドル・NZドル)、カナダドルは11月後半からドルに対して大きく上昇してきており、ドルや円に対して資源国通貨や新興国通貨がどのような動きになってくるかも重要です。

米国の政府機関の閉鎖で遅れていた経済指標がこれから発表されることもあり、ニュースはこまめにチェックしておく必要があります。

11月分の雇用統計は先週発表されませんでしたが16日に発表される予定になっています。

今年は4月のトランプ関税ショックの暴落以降、株式相場も為替相場も大きな調整がないまま8ヶ月が経過しています。株式市場では9ヶ月程度で1つのサイクルが終わることも多く、年末から年明けにかけて大きな調整が入ることも想定しておいた方がいいかもしれません。

ポジション的に見ても株の買いと円売り(ドル／円の買い)に傾いているため巻き戻しが起こるとポジション調整(株の売り、円の買い戻し)が一気に進むリスクがあるということです。

特に、10月以降に積み上がった高市トレードの上昇は解消されることも考えて、チャートをしっかり見ながら取引していきたいです。

- テクニカルで見た重要なポイントは？

今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

11月後半から緩やかな円高が進み、先週は154円台まで値を下げ、155円台前半でマーケットが終わっています。

週足でも2週連続で陰線となっているため下落に注意したいです。

下値は154.3円を割り込むと153.6円、その下は152.8円あたりのサポートが意識されます。

152.8円も割り込んだ場合は、150円あたりまで下落するリスクが高まりそうです。

上値は155.6円あたりに抵抗があり、156円を超えてくるまで上値が重い動きが続きそうです。

156円を超えてくると再度157円台を目指す動きが出るかもしれません。

まずは、154–156円のどちらにブレイクするかに注目したいです。

<気になるクロス円>

クロス円は上昇しているペアが多く、上昇の流れが続くかどうかがポイントです。

資源国通貨は鉱物資源の値上がりも追い風になっています。

今後もレアアースや鉱物資源の動きが資源国通貨の支えになる可能性があります。

南アフリカランドは2018年の高値(9.3円あたり)を超えてくる動きになれば、10円台が視野に入ってきそうです。

ユーロは高値圏で停滞した動きになっているため180–182円程度のレンジが続いています。

どちらにブレイクするか見極めて、流れについていくことを考えたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:○○／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル>

日本では7–9月期GDP(改定値)、10月貿易収支などがあります。

米国では、10月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、7–9月期四半期雇用コスト指数、FOMC政策金利、11月月次財政収支、パウエル・FRB議長定例会見、前週分新規失業保険申請件数、9月貿易収支などの発表があります。

欧州では、ドイツで10月鉱工業生産、11月消費者物価指数、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言などがあります。

ほかには、中国で11月貿易収支、オーストラリア、カナダ、イス、トルコで政策金利、英国で10月GDPの発表などがあります。